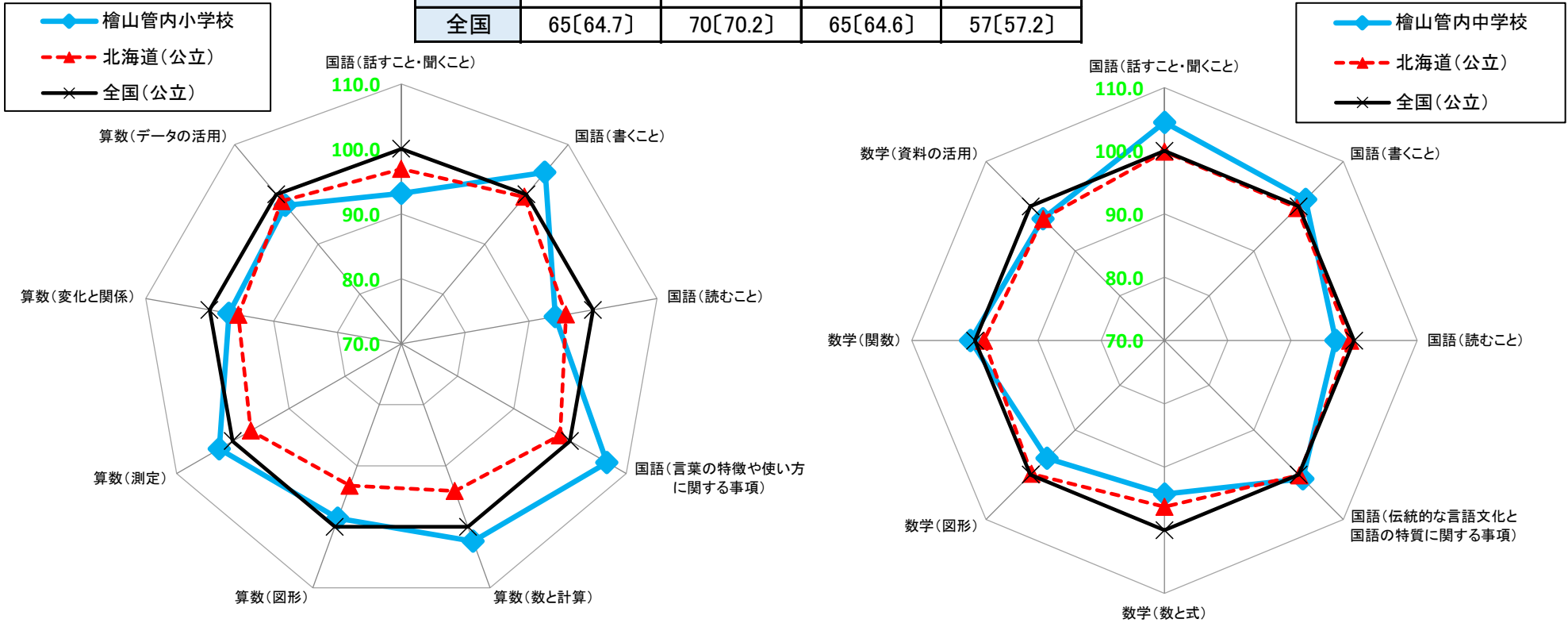
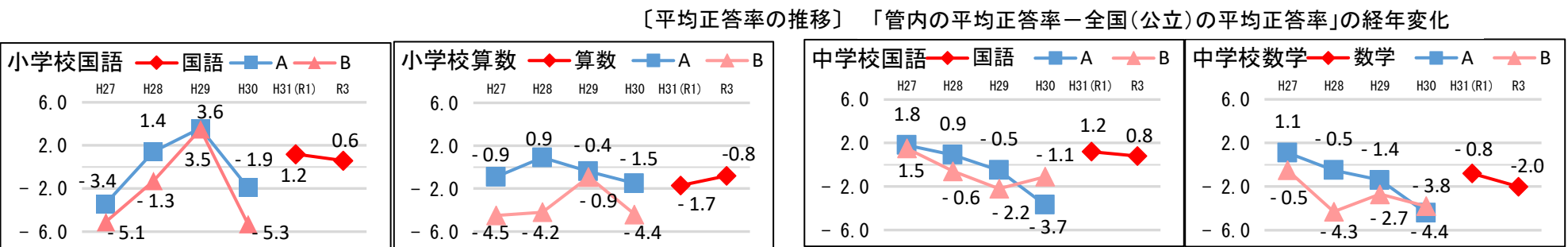


■ 檜山の状況及び学力向上策 (小学校数: 20校、児童数: 202人) (中学校数: 10校、生徒数: 192人)

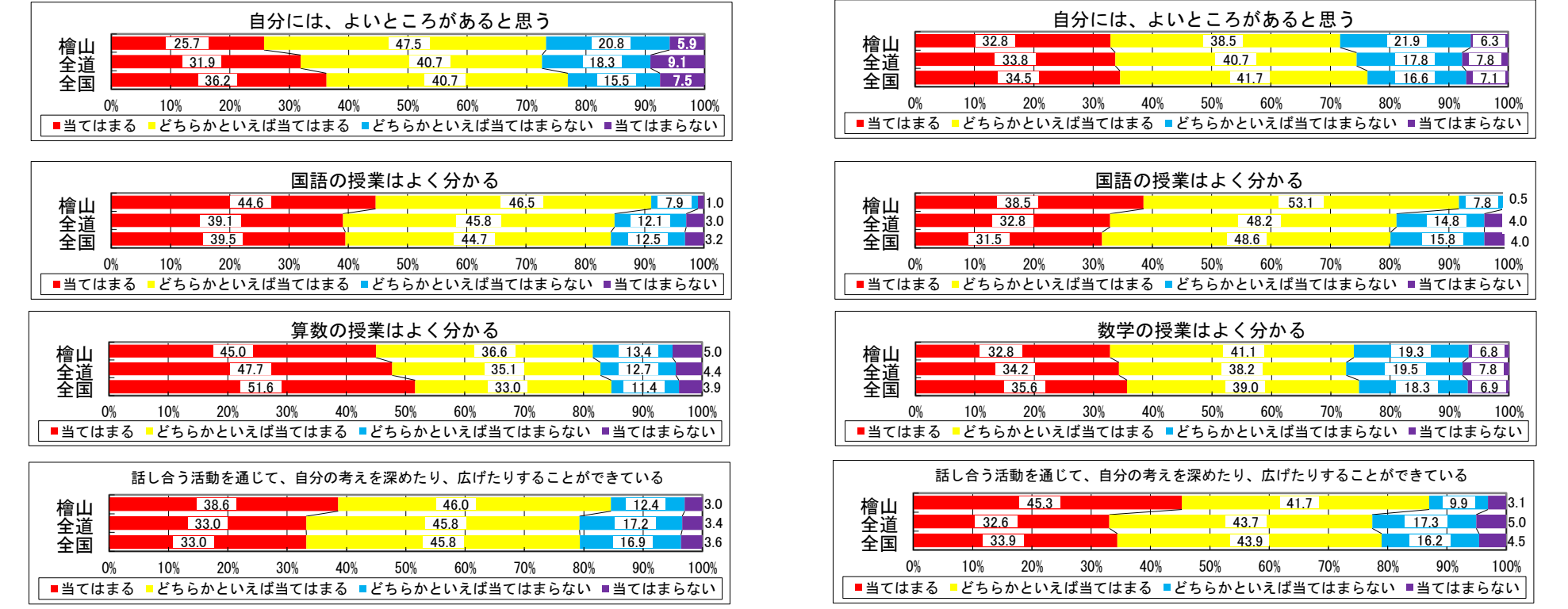
小学校【教科全体の状況】 中学校



教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの (管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【質問紙の状況】 小学校 中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
管内の小学校において、子どもたちが「分かった」「できた」を実感できる授業が行われたことにより、国語の正答率が全国よりも0.6ポイント上回り、算数の正答率が全国とほぼ同等になったと考えられる。	管内の中学校において、子どもたちが「分かった」「できた」を実感できる授業が行われたことにより、国語の正答率が全国よりも0.8ポイント上回ったと考えられる。
管内の小学校において、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を進めたことにより、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたと肯定的に回答する児童の割合が全国よりも5.8ポイント上回ったと考えられる。	管内の中学校において、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を進めたことにより、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたと肯定的に回答する生徒の割合が全国よりも9.2ポイント上回ったと考えられる。

【檜山の学力向上策】 については、次ページの学力向上の取組を参照ください。

檜山管内における学力向上の取組

1. 管内課題と重点的な改善策

- (1)子どもが自分のよさを認識する
- 「自分には、よいところがある」の質問に否定的な回答をする児童生徒がいることから、自分のよさを実感できる教育を展開する必要がある。
- 全ての先生が連携、協力しあい、子ども一人一人のよさを認める取組を行い、全ての子どもの自己肯定感を高め、子どもが「やればできる」という思いの下、学習意欲を高めるなど、学びに向かう力を涵養する。
- (2)子どもが自分の可能性を認識する「分かる」「できる」授業づくり
- 「先生は、分かるまで教えてくれていますか」の質問に否定的な回答をする児童生徒がいることから、「個別最適な学び」の充実に向けた取組を進める必要がある。
- 子どもの学ぶ意欲を高め、自己肯定感を下げないよう、子ども一人一人に寄り添い、努力を認め、「分かるまで」「できるようになるまで」共に学ぶ取組の充実を図る。
- (3)子どもが他者と協働しながら困難を乗り越える授業づくり
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に否定的な回答をする児童生徒がいることから、「協働的な学び」の充実に向けた取組を進める必要がある。
- 自ら学び「分かったこと」「考えたこと」を他に伝え、「友だちのおかげで自分の考えが深まった」「新しい発見があった」など支持的風土のある学級の中で、深い学びを実感できる授業づくりに取り組む。

※平成31年度全国学力・学習状況調査 檜山管内のデータによる

2. 具体的な取組

月	(1)子どもが自分のよさを認識する	(2)子どもが自分の可能性を認識する 「分かる」「できる」授業づくり	(3)子どもが他者と協働しながら困難を乗り越える授業づくり
10	学校教育指導（計画訪問、要請訪問）※各学校の子どもたちの成長を共有し、具体策の充実を図る（通年）		
11	学校力向上に関する総合実践事業指定校による公開研究会（厚沢部小）【授業改善の視点の共有】		
	教育課程編成協議会参加者による授業改善の推進と普及		
12	第2回組織力強化会議の実施【教頭、主幹教諭、教務主任が学校の成長を共有】		
1	檜山管内教育長会議【報告書を活用した管内の子どもたちのよさの共有】		
2	「学び合い」プロジェクト【檜山教育局独自事業】を活用した算数・数学の授業改善に向けた研修の実施（11月～2月）		
3	檜山管内教育長会議【管内の子どもたちのよさを伸ばす方向性の共有】		

3. 取組の評価

(1)子どもが自分のよさを認識する ①「自分には、よいところがある」に対する肯定的な回答 ・現 状 小75.5%、中74.8% ・目 標 小100%、中100% ・達成値 小73.2%、中71.3%	(2)子どもが自分の可能性を認識する「分かる」「できる」授業づくり ①「国語（算数・数学）の授業の内容はよく分かる」に対する肯定的な回答 ・現 状 小：国語87.6%、算数86.3% 中：国語84.4%、数学75.3% ・目 標 小100%、中100% ・達成値 小：国語91.1%、算数81.6% 中：国語91.6%、数学73.9%	(3)子どもが他者と協働しながら困難を乗り越える授業づくり ①「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対する肯定的な回答 ・現 状 小82.6%、中72.5% ・目 標 小100%、中100% ・達成値 小84.6%、中87.0%
---	---	--

4. 改善点

(1)子どもが自分のよさを認識する ・自分のよさを実感できていない子どもが依然としていることから、管内全ての子どもが自分のよさを認識し自己肯定感を高め、進学しても「やればできる」という思いをもって学びに向かうことができるように取組を進める必要がある。 ※第2回組織力強化会議で各学校の取組を共有	(2)子どもが自分の可能性を認識する「分かる」「できる」授業づくり ・現状よりも達成値が小学校算数で4.7ポイント、中学校数学で1.4ポイント低くなったことから、教員が子どもたちの伴走者となり、「分かるまで」「できるようになるまで」共に学ぶ取組を進める必要がある。 ※「学び合い」プロジェクトを活用した算数・数学の単元をととした授業改善の実施	(3)子どもが他者と協働しながら困難を乗り越える授業づくり ・目標値まで小学校で15.4%、中学校で13.0%になるなど授業改善が進んでいることから、現在の取組を支援するとともに、授業改善に苦慮している学校に対して全力で支援する必要がある。 ※義務教育指導監と指導主事による学校と一体となった授業改善に向けた支援の実施
---	---	---